

# こども政策の推進に係る有識者会議資料

2021年9月16日

Torch for Girls / #男女共同参画ってなんですか

櫻井 彩乃

# 自己紹介



## Torch for Girls 代表 #男女共同参画ってなんですか 代表

### 〈略歴〉

1995年 東京生まれ

2015年 Torch for Girls立上げ

- ・若年女性への防災、ジェンダー平等、SRHRの啓発等

2018年 JOGGO(株)就職

- ・バングラデシュの雇用創出

2020年 #男女共同参画ってなんですか プロジェクト開始  
(公益財団法人 ジョイセフ内)

### 〈公職等〉

東京都葛飾区男女平等推進審議会委員

葛飾区女性のための防災等検討委員会委員

内閣府男女共同参画推進連携会議 有識者議員

# #男女共同参画ってなんですかの取り組み

- 30歳未満の将来やジェンダーに対するもやもやを届けて政策に反映しよう
- 第5次男女共同参画基本計画のパブリックコメント手続きで届けよう
- 素案の内容を当事者意識を持てる、共感できる内容にし、SNSで発信
- 32の団体・個人と連携
- 1050件のパブコメとユース提言\*を手交
  - \*第5次男女共同参画基本計画パブリックコメントに伴う ユースからの提言
- 地方の若者の参加・声が多数
  - 住んでいる地域で同様の活動を展開したいという声も



## ユースの声で反映されたこと

- ・就活セクハラ対策
- ・緊急避妊薬のスイッチOTC化の検討

## ユースの声で議論されたこと

- ・選択的夫婦別姓



# 本日本お伝えすること

## 若者の声から見えてきた

- 子ども・若者を取り巻くジェンダー課題
- 子ども・若者が安心・安全に育つために必要なこと
- 結婚・出産の希望を叶え子育てしやすい社会の実現のために必要なこと
- 未来を担う若者の参画の重要性

# 子ども・若者が直面するジェンダー課題

親、幼保・学校  
メディア等による  
ジェンダー規範

性犯罪・性暴力  
ハラスメント

依存症  
(ドラッグ、アルコールなど)

いじめ  
性的いじめ/LGBT*S*いじめ

意図しない妊娠  
性感染症

摂食障害

引きこもり  
自殺

結婚  
妊娠・出産  
育児

労働  
賃金格差

# 保護者や周囲の人によるジェンダー規範の刷り込み

- 生まれた瞬間から始まる「男・女」やきょうだい間でのジェンダー差別(性別役割分業)に違和感を感じ育った子ども・若者は少なくない

## 実際の声

- ・4年生大学に進学したいと親に言ったら、「どうせ結婚するから大学なんて行かなくていい」と言われた。経済的理由もあるが兄は大学に行っているのに私は大学にいけないことに納得できない。(地方在住高2)
- ・「女子は福祉・看護系の短大に行きなさい」と言われた。お金を出してくれるのは親なので、強く反発できなかった。(地方在住高3)
- ・医学部進学を目指していますが、女だからという理由だけで入試の段階で人生の選択が狭められる可能性があると思うと希望を持ってません。(中2)

# 幼保・学校等におけるジェンダー規範の刷り込み

## ■「隠れたカリキュラム」が存在

いつもどんなときも「男女で区別」されることで、「男女で異なり、異なる扱いを受ける」ということを知らず知らずのうちに学んでいる

## <実際に子ども・若者が違和感を感じる点>

### 物理的環境

- ・色分け ・男女別(男子が上)の名簿 ・男女別整列 ・席配置 ・男女別制服
- ・遊び ・出し物の役割など

### 保育士・教職員の言動など

- ・保育士・教職員の性別役割分業(男性＝管理職、専門職)  
→ロールモデル・リーダー像に影響
- ・男子には「くん」、女子には「さん」
- ・児童生徒の性別によってほめ方や叱り方の基準が異なる
- ・ステレオタイプに沿った進路・生活指導

# 幼保・学校等におけるジェンダーによる課題

## 可能性を狭める進路選択:「理系＝男性」「文系＝女性」というステレオタイプ

### 実際の声

- ・学校の先生に理系は男の子の教科といわれた。(中1)
- ・学校の先生に「女子は理系が苦手」と言われ、その後、苦手だと思い込んで文系を選んだ。(高2)
- ・医者になりたいと親に言ったら「医者には男の子の仕事」と言われた。(中2)
- ・工学部に進学したら女子が少なく、進路相談などに乗ってもらえず望む進路選択ができなかった。(23歳)

### 現状

- 日本のIT・STEM進学女子割合はOECD最低レベル
- 日本の工学部の女性比率は15.7%、理学系学部の女性比率28%、両方OECD加盟国ワースト1位  
→能力の問題ではなく「ジェンダーステレオタイプ」が影響
- 他国と比べて日本の女子学生の理数系のスコアが高い
- PISAでは日本女子の数学は世界7位、科学は6位(77か国中)
- 日本の女子は他国の男子よりも高得点
- 高校の時点で自分を理系タイプだと思う女子学生の割合は27.1%(男子学生の約半分)



# メディアにおけるジェンダー規範の刷り込み

- ジェンダー役割を押し付ける、LGBTに配慮がない、ジェンダーに基づく差別、女性を性的対象としている広告に容姿に関する押しつけに不快感や違和感を感じる若い世代の増加
- ボディイメージや摂食障害への影響

## 実際の声

- ・バラエティーなどで女性の容姿を批判したりネタにされているのがとても嫌だ。(21歳)
- ・広告で容姿(色白。痩せている)などの押しつけがあり、自分もあのようにならないとダメだと思い、ダイエットしすぎてしまった。ご飯を食べるのが怖い。(小6)
- ・ネット広告で性的描写が出てきて不快な思いをした。嫌なことを思い出すので規制をしてほしいです。(高1)
- ・強い、泣かない、ムキムキ=男のような刷り込みが辛いです。私は真逆なので女々しいと言われ苦しい。「男らしさ」「女らしさ」という悪い概念がなくなってほしいです。(高3)

# 多様な性の視点の欠如

- 多様な性が前提とされていない社会や学校等が原因で、いじめや暴力、不登校、自殺を考えることに繋がっている

## 実際の声

- ・同級生からからかわれたり、先生に「うちの学校にはいない」と言われ、何も言えなかった。(中3)
- ・制服が選べるのでスカートを履いて投稿したら「おかまだ！キモい！」といわれた。先生は何も言ってくれなかった。(高1)
- ・社会や人々の価値観が男女のどちらかの前提なので私は存在してないのかな？と思う。(22歳)

## 現状

- LGBTの約6割がいじめ被害を経験(※1)
- 就労の領域では、LGBの約4割、Tの約7割が求職時に困難を抱えている(※2)
- 学校で「オカマ」「ホモ」「レズ」「オナベ」といった差別的な言葉によるいじめ  
就活時にトランスジェンダーであることを理由に面接を打ち切られるといった事例が起きている

※1 宝塚大学看護学部日高研究室 LGBT当事者の意識調査「REACH Online 2016 for Sexual Minorities」(2016)

※2 (c)Nijiirō Diversity, Center for Gender Studies at ICU 2016

# ジェンダーに左右されることなく育つことができるために

## 解決策

### ★幼児期からのジェンダー平等教育の実施

(「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に則った包括的性教育)

### ★保育士・教職員のへのジェンダー平等研修の実施

ジェンダーバイアスに自覚するための研修の実施

### ★ICT(主にSNS)を活用した保護者保護者へのジェンダー平等啓発

○未就学児向けの教材等の作成(アニメ、絵本など)

○保育、教育環境の見直し

○保育士・教職員のキャリア支援、環境整備

○中高段階で理系の先生 / 情報の先生を5割女性に

○情報技術の教科書作り手側も女性を5割に

○理系進学の前にある理系の進路についての啓発

○多様な性に配慮した学習指導要領や教科書の表記

### ★LGBT教育の必須(「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に則った包括的性教育)

# 包括的性教育の必要性

## 実際の声

- ・16歳で出産しました。そこで学歴も止まり夢や人生の方向が大きく変わりました。就職しようと思っても学歴や資格の無さから難航しています。自己責任かもしれませんが、学校で性に関する知識を教えてほしかったです。簡単に妊娠してしまうと思わなかったです。(16歳)
- ・包括的性教育とは人権教育であり、教育を受けることにより皆がより生きやすくなると思います。そして、性犯罪から自分を守ったり、適切な対処、性被害の予防になると思います。(中学生)
- ・性教育=いかがわしいという古くて悪い考えを改めてほしいです。性教育の知識がなければ身を守れないのに「いかがわしいから」というなんとも妙な理由で私たちは知る権利を奪われています。(中学生)
- ・女子学生が妊娠したら退学、男子学生は退学にならないとドラマで知りました。なぜ女性だけが責任を取らされるのか納得できません。退学させる程のことなのであれば、学校で予期せぬ妊娠を防ぐための教育を行ってください。大人が教えてくれないのに学生だけが責められ、将来を奪われるのはおかしいと思います。(高校生)

# 包括的性教育の必要性

## 実際の声

- ・親や学校が性に関する知識やパートナーシップについて教えてくれなかったので、初めて彼氏ができた時、どうしたらいいのかわからなかったです。相手に言われるがまま性行為をしましたが、とても傷つきました。その後、私は嫌だと言って良かったということを知って、もっと前に知っていたらこんなに傷つくことなかったのにと思いました。(18歳)
- ・性に関する知識の欠如により相手を傷つけました。とても後悔しています。学校で教えてほしかった。(17歳)

## 現状

- 現行の性教育は、時間数・内容ともに規定がなく、各教育機関の裁量による部分が大きく、包括的とはいえず、おかれる環境により質の差がある
- 学習指導要領(文部省『新学習指導要領』2017年3月)には小学生・中学生において「受精・妊娠の経過は取り扱わないものとする」という規定があり、限定的な内容の教授にとどまっており、児童・生徒の現状に即した指導が困難
- 教職員の中には性に関する教育を得意としない人が多くいる
- 「生命(いのち)の安全教育」が2021年から試験的に行われているが限定的な内容

# 包括的性教育の不在

- プライバシーや個人の自主性が尊重されること、いつ誰と結婚するか/しないか、子どもを持つかどうか、持つならどのように何人持つか選べること、性感染症の恐れなしに性的関係が持てること、セクシャリティについて自由に定義できること（セクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ:SRHR)
- 実現するための行動はどれも、十分な環境が整っていないどころか大きなスティグマの対象に
- 意図しない妊娠、妊娠不安、不妊治療、性暴力にあってはじめて自分の体に向き合うのでは遅すぎる
- それぞれの年齢に適した包括的性教育の実施が急務

## 子ども・若者を取り巻く様々な性に関する課題

虐待/ 性虐待	性的搾取	無防備な 性交	児童ポルノ 被害	レイプ	性産業
デートDV	性的いじめ	意図しない 妊娠	依存症	痴漢	SNSでの 被害
貧困	LGBTQ いじめ	性感染症	ストーカー 被害	セクシャル ハラスメント	摂食障害

# 困ったとき・不安なときに頼れる場の必要性

- 若年層には、婦人科・泌尿器科の受診に強い抵抗感がある
- 特に(産)婦人科は子供ができてから行く場所という認識が強く、行く習慣がない
- 望まない妊娠や性暴力被害等を受けて初めて様々な悩みを受け止めてくれる場所を知る  
(ワンストップセンター、ホットラインなど)

## 実際の声

- ・性の悩みを相談したいと思った時に気軽に相談できる場所がほしいです。病院は怒られそうで怖い。(高1)
- ・前に親に内緒で婦人科に行ったら怒られたので、それ以降、悩みがあっても病院には行けない。(大学生)
- ・妊娠したかもと思い、ネットで調べてが何を信じればいいのか分からなかった。(大学生)
- ・生理用品や避妊具が高くて買えない。(彼氏が避妊してくれないから自分で何とかしている)(高3)
- ・避妊に失敗したかもと思ったけど初めてのことでどこに相談したらいいかもわからなくて、友達に聞いてもいい答えがもらえなかった。あの時は妊娠せずに済んだけどいつでも相談できる場所が欲しい。(高2)

## 現状

- 身体的問題だけでなく、心理的・社会的問題も一緒に扱ってもらえる場所は少ない
- 避妊具販売、性感染症検査、月経治療、緊急避妊薬処方などは若年に特化した経済的な免除はない
- 保険証問題、距離の問題、お金の問題、医師の問題、そもそも病院に行くべきだと認識していない

# ユースクリニック

- 欧米諸国を中心に若年層を中心としたセクシャルリプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する情報提供・相談・診断・治療が実践できる専門家のいる場としてのユースクリニックの設立運営が一般的

## スウェーデンの取り組み

- ・スウェーデン全土に250カ所程度
- ・13～25歳対象(地域ごとに多少の違い)
- ・助産師、看護師、カウンセラー、セクソロジスト・産婦人科医・ソーシャルワーカーなどが待機
- ・対応範囲: 身体・対人関係・アルコール・性交渉・避妊等々広域
- ・避妊具提供、性感染症検査、カウンセリング
- ・18歳以下は避妊具等含めて全て無料
- ・プライバシーの厳守
- ・性的マイノリティに対する対応トレーニング(HBTQ diplomerad mottagning)



# 就活セクハラ

- 「就活セクハラ」は、面接での性差別的な発言から性行為の強要まで幅広い
- OB・OG 訪問アプリやマッチングアプリを悪用し、企業の目の届かない場所で「就活セクハラ」が頻発する深刻な実態

## 実際の声

- ・就職活動の面接で自己PRを言ったら、「男だったら良かったのに」と言われました。(大学生)
- ・コロナ禍でアプリやSNSを通じた社員訪問もできるようになり、危険な状態に晒されています。就活生に責任や負担を押し付けるではなく、国・企業・大学が連携して学生を守る仕組みが必要です。何が起こった後なく、事前に防ぐことができる実効性のある対策を求めています。(大学生)
- ・就活時に、不適切な質問に答える必要はないと知っていても、選考に影響するかも…と思うと答えないといけない気がしてしまいます。就活生を守ってください。(大学生)
- ・面接先の社員から話を1度聞いたら、その後食事等に誘われて性被害に遭った。(22歳)
- ・就活の際に私的な質問によりカミングアウトさせられ、その後、就活を続けることができなくなった。(24歳)
- ・就活セクハラを受け、学校に相談したが、「うちのOG・OBがそんなことするはずない」と相手にしてもらえなかった。(22歳)

# 健やかで安心・安全に育つことができるために

## 解決策

★「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に則った包括的性教育の実践

○「生命(いのち)の安全教育」に関して、専門的用語の追加、当事者への配慮、

教材だけでなく、学習する児童・生徒へのアクティブラーニング要素を取り入れた実践への変更

○社会・医療者全体におけるスティグマ払拭(教育・啓発)

○幅広い範囲を扱える性教育者の育成。指導に当たる教師を対象とした専門家による研修の実施など

★ ICT(主にSNS)を活用した保護者保護者への性教育啓発

★ユースフレンドリーな医療・SRHRサービスの充実

○ICT(主にSNS)を活用した子ども・若者への情報・相談先の啓発

# 結婚・出産の希望を持つことができる社会の実現

- 結婚する/しない、子どもを産む/産まないを一人ひとりが選ぶ権利(SRHR)
- 結婚や出産を当然と考えている社会の価値観、制度、他者からの意見などにより自分の望む選択ができないと思っている人は多い

## 若い世代の結婚・出産への不安

### ①非正規労働の身分的不安定、賃金上昇期待の無さ

#### 実際の声

- ・結婚や子どもを望んでいるが、非正規雇用なので実際は無理。今の国の支援じゃ無理。(24歳)
- ・残業して20万円を超える賃金という経済状態なので、結婚や出産を想像できません。  
親の経済状況のせいで子供の選択肢を狭めてしまったら？そう考えると子供が欲しくても、  
無責任に産めないと考えています。子どもを望む人の希望をかなえる社会(制度)を望みます。(25歳)
- ・将来、結婚や子どもを望んでいるので、制度が整っている会社に就職したいと思いましたが、自分のやりたいこともあり、将来のために安定を取るか迷っています。多額な奨学金を払わなければならないので、自己実現は諦めるしかないと思いきしいです。これまでの教育で「自分らしく」と言われましたが、結局、お金で人生を決めなければならないとは思いませんでした。(大学生)

## ②出産によるキャリアの分断への不安

### 実際の声

- ・結婚や子どもを望んでいますが、上の世代を見ていると、「子ども＝コスト」だと思えるようになりました。今まで積み上げてきたものが無くなり、悲しい思いをする可能性もあると思うと、子どもは望めません。(26歳)
- ・仕事か子どものどちらかではなく、仕事と子どものどちらも選びたいです。(24歳)
- ・理系の職場で働いていますが、女性の上司が少なく、今まで産休・育休を取得した人もとても少ないので、ロールモデルがおらず、希望を見いだせません。(24歳)
- ・上司から就職して5年以内に子どもができたら重要な仕事をさせないと言われ、そのような事が許されないと理解していますが、組織の中で生きていくために従わざるを得ないと思っています。(27歳)
- ・結婚、妊娠、仕事、どの選択肢を選択しても、しなくても、周りから色々言われます。どの立場で生きていくにしてもしんどいです。結婚をしなければ行き遅れ、いつ結婚するのか、いい人はいないのかと言われ、仕事をしていても所詮女でいつか辞めるからと仕事を任せてもらえない、妊娠したら、このタイミングで？と言われたり、その瞬間キャリアを諦めざるを得なくなる。お手本にしたいロールモデルもないし、この国がこれからよくなっていく未来が見えません。(25歳)

## 実際の声

- ・若い世代は、もはや子供を産みたくない意志を持つ者も多いです。低賃金で子育ての余裕がないというのも理由のひとつですが、そもそも妊娠・出産すると女性の今後のキャリアが保証されず、絶たれる可能性が充分あるからです。  
「女だから結婚・出産して退職するだろう」というレッテルがまだあるので、出世コースに女が中々入れない。そんな社会で子どもを産んで欲しいなんて無理。(20代社会人)
- ・男性は育休取得率や転勤・異動を気にせずに職選びが出来ますが、女性はそうではありません。総合職で働きたいと思っても、結婚した後の制度等も考えて職場を選ばなければなりません。女性は職業の選択肢が狭まるのに対し、男性は幅広く選択できます。  
なぜ性別が違うだけで未来の選択肢が違うのか。女性に生まれたことが悲しいです。(高校生)
- ・就活の際に同世代の男の子から「女の子は育休・産休があるから活躍できない」と言われました。子供を育てる＝女性という固定観念がこの時代にもまだ存在するします。(大学生)
- ・医学生です。女性というだけで将来のライフイベントを考えて診療科を決めなくてはならない現状を変えてほしい。女性が家庭を持ちながら働くことは現実的だと思えません。制度だけでない職場の理解や、母親と同様に父親も育児に関わることが普通である社会を望みます。(大学生)

### ③男性の不安

#### 実際の声

- ・「男は稼ぎがないと結婚できない」という考えがまだあるので、現状の稼ぎだと結婚できない。(27歳)
- ・男性も環境が許せば、育児休暇を取得したいです。しかし、社内では、育児＝女性という役割分業意識があるので、育児をしたいということを書きません。男性育休の制度をつくっても社内では歓迎されません。
- ・男性も育休を取りやすい社会になって欲しいです。出産後、夫の協力は不可欠にも関わらず、この時代に育休をとらせてもらえない風潮が色濃いことに疑問です。  
形だけの制度ではなく育休を1年程取得するのが当たり前な社会になって欲しいです。(26歳)

### ④情報・相談窓口の啓発の欠如

#### 実際の声

- ・社会人になり、妊娠にはタイムリミットがあることを知りました。  
妊娠や性のことについて早い段階で知っていたら、人生の設計や仕事のキャリアについてもっと早く考える事ができたと思う。(28歳)
- ・中学3年生ですが、出産や育児に伴う女性の苦労やキャリアを狭められている現状を義務教育過程で教えてほしい。人権(ジェンダー)教育や性教育を受けたかどうかで私たちの人生は大きく変わると思います。
- ・産みたいと思っても、何の情報から集めればいいのかわからない。誰に相談したらいいかもわからない。
- ・子どもを望んでいるが妊娠ができず、クリニックに相談に行ったが「若いから大丈夫」と言われ不安です。  
若い世代が妊活の際に不安なことを気軽に相談できる場所をつくってください。(26歳)

# 早い段階から望むときに結婚・出産できる環境の整備

## 知識・情報・相談窓口の啓発

- ★妊娠・出産を希望する/しないに関わらず、包括的な教育(プレコンセプションケア)の実施
  - ★予期せぬ妊娠・性感染症を防ぐ手段のひとつである「避妊」に関する認識や理解を深める教育の実施
  - ★ジェンダー平等教育の実施
  - ★妊娠・出産や親になることを前提としないキャリア教育の実施
- ICT(主にSNS)を活用した積極的なアプローチ(受け身×)
- マタハラ等のハラスメント、妊娠不安・妊活に関する相談窓口の充実・啓発
  - 現行の制度、状況等(制度などがまだないと思っている若者もいる)

## 避妊サービス等へのアクセス改善

- 現時点で妊娠・出産を望まない若年女性に対する避妊サービス等へのアクセス改善(予期せぬ妊娠を防ぐなど)
- ユースフレンドリーな医療・SRHRサービスの充実
- 緊急避妊薬販売のスイッチOTC化

# 結婚・出産の希望持ち子育てしやすい 社会の実現のために重要なこと

## 選択的夫婦別姓制度の早期導入

- 若い世代でも「選択的夫婦別姓」導入の声が高まっている
- 一人っ子同士のカップルの場合、どちらかの姓が途絶えてしまうため結婚できずにいる
- 結婚の際に姓をどうするか自分たちで選べない絶望感

## 女性の社会資源としての側面を過度に強調しない配慮

- 「産む機械」発言等に現れるような、女性を社会資源としてのみ捉えるような社会からのまなざしに、若者は敏感。国が出生率の向上を目的として実施する政策の一つ一つが圧力へつながる
- 女性がひとりの人として尊重されるよう十分な配慮が必要

## 実際の声

- ・キャリア教育の授業で使ったワークシートが女性は結婚・出産が前提で今の時代に合わないと思いました。様々な選択肢から選ぶことができると伝えるのがキャリア教育のはずですが、子どもを産むことだけ学んで悲しくなりました。もし、将来私がこの国で子どもを産まなかったら存在価値がないのかな…(中3)
- ・女は子どもを産むのが当たり前という価値観の田舎に住んでいます。「いつ結婚・出産するのか」と言葉が嫌なので、田舎を出ていこうと思います。(20歳)



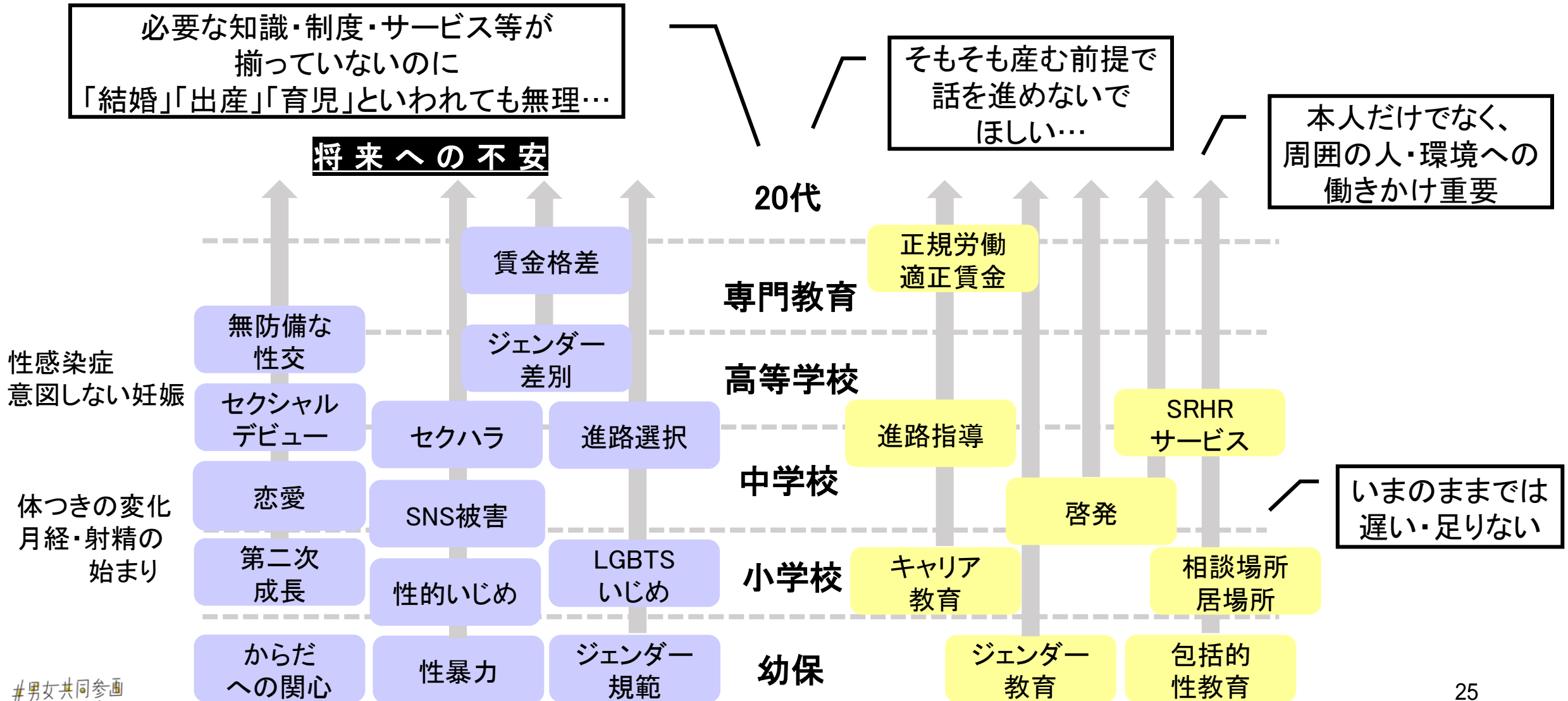
# 未来を担う若者の参画の必要性

- 当事者の不安や困りごと、希望が政策決定過程に反映されにくい。
- 若者が政策決定過程に参画し、政策に反映させるべき。
- こども政策ではなく、こども・若者政策とすべき。
- こども庁:こどもだけでなく、若者も含めるべき。

## 解決策

- 社会課題の抜本的解決には至らずとも、解決に向けた政策立案に子ども・若者自身がパワーを持っているのだと実感できる自己効力感を持てる機会の創出
- 政策・施策・事務事業が展開されていく中で、受益者たる子ども・若者に対しその効果をヒアリングする上での子ども・若者の参加

子ども・若者が安心・安全に育つことができるためには、  
義務教育以前の全ての段階からジェンダー視点を持つ取り組みが必要



## 参考資料

# 包括的性教育 (Comprehensive Sexuality Education)

## 包括的性教育の特徴

- ・科学的に正確であること
- ・徐々に進展すること
- ・年齢・成長に即していること
- ・カリキュラムベースであること
- ・包括的であること
- ・人権的アプローチに基づいていること
- ・ジェンダー平等を基盤としていること
- ・文化的関係と状況に適応させること
- ・変化をもたらすこと
- ・健康的な選択のためのライフスキルを発達させること

## キーコンセプト

1. 人間関係
2. 価値観、人権、文化、セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解
4. 暴力、同意、安全
5. 健康と幸福 (well-being)
6. 人間の身体と発達
7. セクシュアリティと性的な行動
8. 性と生殖に関する健康

## 年齢別学習目標と主な内容 (生殖について)

5~8歳	赤ちゃんがどこから来るのか説明
9~12歳	妊娠・避妊の説明避妊方法の確認
13~15歳	妊娠の兆候・胎児の発達 分娩の段階を説明
15~18歳	生殖・性的機能・性的欲求の 違いを区別

※一部抜粋

[https://www.unaids.org/sites/default/files/media\\_asset/ITGSE\\_en.pdf](https://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/ITGSE_en.pdf)

UNESCO他 2018 “International Technical Guidance on Sexuality Education”

# 包括的性教育の効果

- ・初交年齢の遅延
- ・性交の頻度の減少
- ・性的パートナーの数の減少
- ・リスクの高い行為の減少
- ・コンドームの使用の増加
- ・避妊具の使用の増加

(ガイダンスではコンドームは避妊具ではなく性感染症予防手段と扱われている)

- その他の検証項目においても、全ての項目で包括的性教育が子どもや若者に対して良い影響を与えることが確認されている

